

# 平成15年度事業計画

自 平成15年4月 1日

至 平成16年3月31日

財団法人 ハイライフ研究所

## 1. 各研究の概要

### ①21世紀のハイライフに関する研究

[研究テーマ 1]

「環境と都市のライフスタイル」に関する研究

#### 研究概要

本年初頭、(社)経済団体連合会が発表した「活力と魅力溢れる日本を目指して」によれば、経済再生戦略とともにエコロジー的環境改善に配慮した「環境立国」になることが我が国の最重要課題としてあげられている。人々の快適さ豊かさに考慮しつつ環境を守る「循環型社会」の形成は、世界各国の目標になっている。80年代後半、西欧社会では社会経済的目標とエコロジー的環境改善をともに追求する「エコロジー的都市改造」が具体的に進行し、同時期に市場経済中心の米国においては経済に配慮しつつ、社会的目標と環境的目標を統合しようとする「グリーン開発」が「不動産事業」や「各種施設改善」に導入され、90年代には各地で多様なプロジェクトが展開されるようになっている。

こうした動向は生活者、企業、行政の「環境」や「地域文化」、「生活」に対する価値観が大きく変わりつつあることを反映している。

本研究では、世界で同時に進行している「循環型社会」に向けたプロジェクトや生活者、企業、行政の取り組みを具体的に調べ、「都市生活と都市環境の有り様」、即ち、新しい価値観に基づいたライフスタイル＝21世紀のハイライフについて検証し、再生への方策を提起する。

#### 調査研究方法

- (1)文献資料調査(アメリカ、西欧、日本、先進プロジェクト)
- (2)ヒアリング調査(国内企業、行政の取り組みなど)
- (3)現地調査(上記調査対象の中の国内で主要なもの)
- (4)Web調査(市民の取り組みなど)

#### 研究体制

企画推進: 中田裕久((株)オオバ 環境開発研究所主任研究員)

研究協力: (株)読売広告社第1営業本部都市生活研究ディビジョンほか

(財)ハイライフ研究所内に研究プロジェクトチーム事務局

## [研究テーマ 2]

### 「現代家族のライフスタイルとストレス」に関する研究

#### 研究概要

現代社会はストレスと一体不可分の関係とも言えよう。今や「ストレス」は医療・健康という領域を超え、「癒し」が社会的なキーワードになる等)生活者のコミュニケーション、消費行動にも多大な影響を与える存在となっている。

そうした時代における、現代の家族に関しては、家族の構造・構成、共同性のあり方などの点で選択性と多様性が増大していることを指して、家族のライフスタイル化と呼ぶことがある。しかし、一方社会が既に持っている家族イメージや規範は意外に画一的なものであり、そこからの標準的な家族像の社会的圧力は必ずしも衰えてはいない。現実の多くの家族は、手持ちの準拠モデルを修正しつつ、家族メンバー間の選好欲求のズレを調整するという試行錯誤を続けている。かくして家族は、ストレスを癒す場である以上にストレス生成の場ともなっている。

本研究では、職場やコミュニティなど家族以外の生活領域との関連を視野に入れ、社会的ネットワーク論の視点を援用しながら、ライフスタイルの多様性と家族のストレスの生成と緩和の間に働いているメカニズムを探求し、サポート産業の新しい動向など、ライフスタイルへの影響を探る。

#### 調査研究方法

- (1)文献資料調査
- (2)ヒアリング調査
- (3)Web調査、等

#### 研究体制

企画推進:野沢慎司(明治学院大学社会学部教授・家族社会学)

研究協力:(財)ハイライフ研究所研究員 ほか

## ②ハイライフモデル調査の展開

### [研究テーマ 1]

#### 「団塊世代研究Ⅴ・団塊夫婦の行方」に関する研究

##### 研究概要

平成11年度は団塊世代の「分散と分化」、12年度は団塊世代の女性達に焦点をあてた「女性史」、13年度は旧世代との比較において団塊の世代を見つめなおす「旧世代との比較」、14年度は「漂流する団塊世代」として団塊世代を都会と地方とに分けての分析を行ってきた。15年度は“団塊世代の研究Ⅴ”として「団塊“夫婦”の有り方」を取り上げ研究する。

子供が独立しサードエイジを迎えた団塊夫婦は、夫婦2人お互いに向き合う時代を迎える。旧世代とは異なるニューファミリーカップルとして“仲よし夫婦”と見られがちではあるが、その実態はどうなのか。あるときは革新的に、あるときは付和雷同的に動いてきた彼らが、子供から開放された“夫婦”の間に従来とは異なる新たな関係性が構築していけるのか。世界一急激に高齢社会化する我が国において彼ら夫婦2人の新たなライフスタイル、消費行動が社会・経済問題としても耳目を集めている。

##### 研究体制

企画推進:加藤信介(ハイライフ研究所)

研究協力:立澤芳男(マーケット・プレイス・オフィス代表)

(財)ハイライフ研究所事務局

## [研究テーマ 2]

### 「シニア期におけるハイライフモデル調査・研究」

#### 研究概要

集団としてのボリュームと、その持てる経済力で近年60歳以上のシニア層がマーケティング的にも脚光をあびてきている。

団塊の世代研究はここ4年間にわたりハイライフ研究のテーマとして深耕し

てきたが、今回はその数年後を展望する意味も込めて史上もっとも恵まれた層といわれる一世代上の層の消費動向・今後の生活の展望、意識などを具体的な事柄・現象の中からいち早く捉えタイミングよく調査し、年数回の「ハイライフ タイムリー レポート」(仮称)として新たに発行し情報発信していく。

#### 研究体制

企画推進: 加藤信介((財)ハイライフ研究所)

研究協力: 高橋洋一郎((株)パワーウイングス代表)

(株)創造開発研究所

(財)ハイライフ研究所内に研究プロジェクトチーム事務局を設置

### ③ハイライフ研究に関する普及活動

#### ホームページの充実

広報活動及び研究発表の場として立ち上げましたホームページは4年間で約21,500のアクセスがあり、研究報告書への問い合わせも増加中。今後も、研究報告書の全文掲載、シンポジウム・講演会等の内容の掲載等のほか、ハイライフ研究所発の情報発信の場として更に充実を図っていく。

#### 広報誌「はいらいふ研究」の発刊

研究所の広報及びPR強化の一環として、(財)ハイライフ研究所の活動報告や報告書、新しく発行する「ハイライフ タイムリーレポート」(仮称)以外の研究成果を研究所独自に編集して年1回発行。

### ④ハイライフ研究に関する催しの開催

銀座コムホールを使用した、ハイライフセミナー、講演会、シンポジウム等を企画し、銀座発のハイライフ研究に関する情報発信を充実させて行く。とくに15年度は当財団の設立10周年になることから予算のメリハリをつけ、開催回数よりもテーマの斬新さ、社会的関心度の多さ、提案性、などに考慮し内容を高めた催しとしたい。

#### ハイライフセミナーの開催(銀座コムホール)

- 1)今年度の研究成果の発表
- 2)10周年記念セミナーの開催

## 2. 受託研究の概要

### ① 生活文化に関する受託研究(読売広告社より受託)

研究テーマ 生活文化に関する研究

#### 研究概要

(株)読売広告社からの受託研究として、11年度「団塊家族」(PHP 出版)、12年度「共立夫婦」(日科技連出版)、13年度「ブロードバンド生活読本」(日科技連出版)、そして14年度「新ライフスタイル～トランスファー消費者～」(宣伝会議から本年5月発刊予定)と研究成果を出版してきた。15年度は社会のトレンドや生活者の価値意識の変化を分析し、都市生活文化に関する研究を受託予定。

#### 研究体制

《生活文化研究プロジェクト》

研究メンバー:読売広告社都市生活研究ディビジョン  
ハイライフ研究所研究員

研究協力:創造開発研究所

#### 研究方法

研究会を中心に分析  
文献調査・ヒアリング調査  
現地調査など